

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2024.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

皆さんこんにちは。

E-learning教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。

こちらは主に、人文・社会科学系の4回生・M1の方を念頭に置いた内容になっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの教材で構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

論文の検索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を得る方法を学びます。

2つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献探索を行った結果として得られた、論文の書誌情報をもとに、実際に論文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください。

本教材の目標

学習目標1：

先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できる

学習目標2：

「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：

文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

この教材の学習目標は、こちらの3つです。
前置きは良いから、「とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてください」と思われるかもしれません。
しかし、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう可能性が高くなります。
ですので、学習目標1を踏まえた上で、学習目標2・3で示しているような2つの文献探索アプローチを学んでいきます。

本講習会の構成

1. 先行研究調査とは何か
 2. 「芋づる式」による先行研究調査
 3. 文献データベースについて（概要）
 4. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査
 5. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査－CiNii Researchを事例に
- 補遺. シソーラスを備えたデータベース

教材はこのような構成になっています。
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

1. 先行研究調査とは何か



それでは、さっそく第1章「先行研究調査とは何か」について説明していきます。

先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜなら、研究は基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから

6

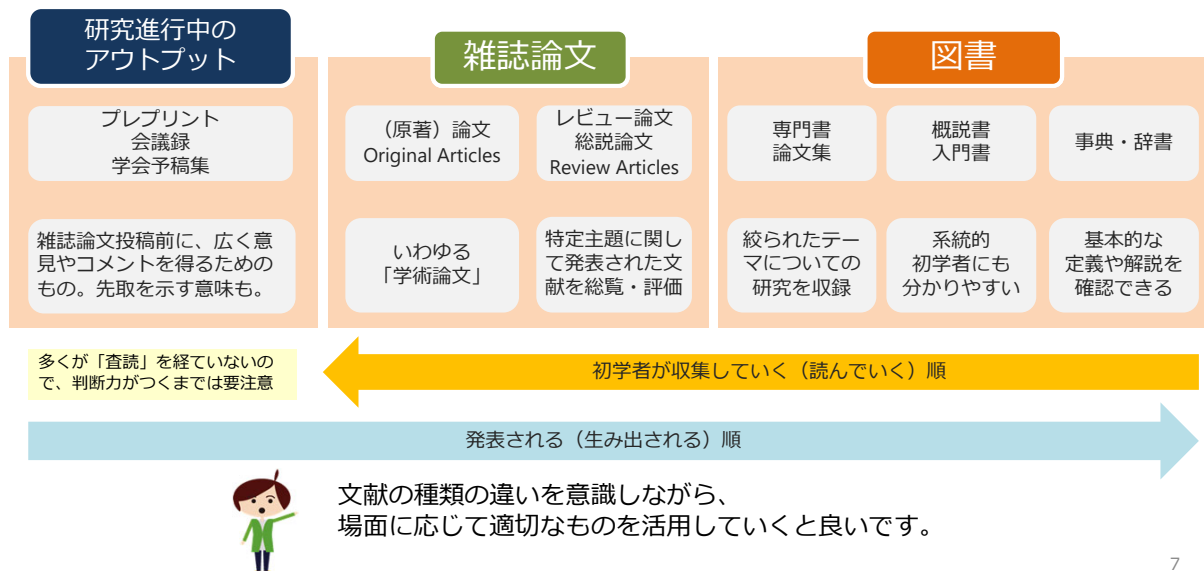
「先行研究調査」とは、自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することです。研究の最初に踏むべき手順といえます。

皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

研究は主に、雑誌論文や学術書などの「文献」の形で発表されるので、文献を「適切に」集めて読むことが先行研究調査の基本的な手段となります。

この教材を通じて、文献を「適切に」集めるということについて理解するようにしてください。

研究の流れと学術文献の関係



一口に「文献」といっても、さまざまな種類があります。主なものをまとめたのがこちらの図です。

大きくくくりとして図書、それから雑誌論文があります。

ただし、あるテーマについての論考を集めた論文集と、特定のテーマに関する文献を総覧・評価するレビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また研究分野によっては、プレプリントや会議録など、研究進行中のアウトプットが学術文献として流通することもあります。

研究は、まず論文として生み出されたあと、別の研究者によって引用され、議論されます。

時間がたてばたつほど議論が深まり、共通の認識となり、図書としてまとめられることが多いです。

さて、先行研究調査というと、まず論文を探して読む、というイメージが無いでしょうか？

しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという皆さんにとっては、まずは事典や辞書、概説書や入門書など、系統的にまとめた「図書」から読んで理解を深めていくのがよいでしょう。

つまり、研究成果が生み出される順と、初学者が読んでいく順が逆になります。事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まります。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）

研究史を把握する

調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で
定義や解説、研究史を理解する

↓

専門書や論文で
研究における実際の活用事例を知る

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる

⇒研究者としての意義にもつながる

8

先行研究調査には、学習者としての意義と研究者としての意義があります。

まずは「学習者」としての意義です。先行研究調査は、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむことにつながります。

先行研究を読むことで、その分野における既存の認識や専門用語、研究史、調査手段や分析手段を学ぶことができます。

最初に事典類や概説書で定義や解説・研究史を読んで基本を理解した上で、専門書や論文に進み、実際の研究の中でどのように用語や理論、調査・分析手段が活用されているのかを知っていくようにすると良いでしょう。

さらに、先行研究調査を行うことにより、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。

このことは、自分の研究テーマを設定して絞っていくための大きな手掛かりとなりますので、この後説明する研究者としての意義にもつながっていくといえます。研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておく、研究テーマ設定の助けにもなるでしょう。

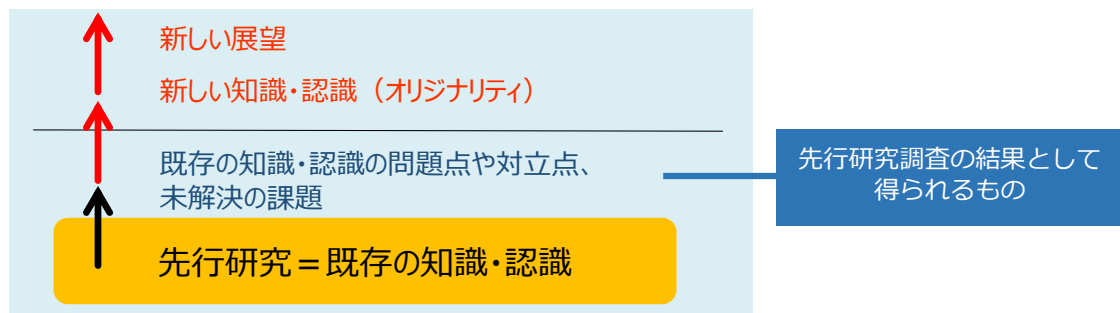
先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すため

研究＝既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



9

先行研究調査の「研究者」としての最大の意義は、このスライドで示している点です。

研究とは、既存の知識に「新しい」知識を追加することです。「新しく」ないと研究とは言えないわけです。

何が新しい知識かどうかを判断するためには、既存の知識である先行研究をできるだけ広く調査するしかありません。

必要とされる「新しさ」は研究分野によっても違いますし、研究者としての段階によっても違ってきます。例えば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なります。

自分に取り組もうとしている内容が「新しい」研究と言えるのかどうかは、先生から随時アドバイスをいただくのが良いでしょう。

論文では、これまで研究されたことを示したうえで、自分の研究の新しさ、すなわち、研究の意義を示す必要があります。

先行研究調査は研究に欠かせないプロセスと言えるでしょう。

2つのアプローチ

参考文献をたどる[芋づる式]

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

文献データベースによる検索

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

10

先行研究調査には主に2つの方法があります。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。

研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては大きな恩恵が得られる方法ですが、直接の参照関係に含まれていない関連文献を見落としてしまう可能性もあります。

次のスライドからは、こちらの「芋づる式」の調査方法について詳しくご紹介します。

もう1つの方法として、文献データベースによる検索が挙げられます。

「文献探索」と聞いて皆さんがまず思い浮かべるのはこちらではないでしょうか。メリットとしては、適切に活用すれば、多くの文献を発見できることがあります。一方、デメリットとしては、使い方を誤ると見逃しが多く発生してしまうことがあります。

人文社会科学系の日本語文献を検索するためのデータベースは、総じて高度な機能が整備されていないことが多く、うまく活用しなければこのようなデメリットが発生しがちです。

本教材の後半では、文献データベース検索のコツを中心にご紹介していきます。

このように、文献データベースによる検索および芋づる式調査という2つのアプローチには、それぞれにメリット・デメリットがあります。うまく併用していくことが大切です。